

生活の様式と製品の様式

製品やメディアそしてそれを支える技術が、私達の社会や文化を変容させ、また私達の感覚や思考のあり方を変容させてきました。日用品は私達の生活や思考や感覚のあり方を決定しています。そのような日用品を私達は作り出しているのです。

○ 住居

エベネザー・ハワードは、都市と田園を併せ持った田園都市を構想します。一方、ル・コルビュジエは、「住宅は洗面台と便器と風呂を収めた機械である」と主張し、ユニット化された浴室や便器をデザインします。「貧しい人にも安全なシェルターとしての住宅を供給する」ことを目指します。現代の住宅は、まず何よりも、衛生装置なのです。

○ 電灯

人工太陽は人工化された空間を日常化しました。人工光とエアコンによって環境が作られています。多くの日本人が谷崎潤一郎の「陰影礼賛」に共感します。

照明器具の革新は、労働用の照明の必要性の結果でした。アルガン式ランプからガス灯、白熱電球までの百年間は、産業革命による労働の組織化への急激な変化の過程でもあったのです。

○ オフィス家具

公私の分離により管理された『職場』が成立します。近代的なオフィスは、プライベートなものを排除した公的な空間です。ジュレミー・ベンサムが考案した一望監視システムは、規格化されたデスクが整然と並び、監督者が最後部で背中から一望監視しました。

世界恐慌を背景にして、1930年代にはじまる産業合理化運動と、大戦によって引き起こされた社会関係の再編が、戦後の社会構造を決定します。産業の合理化と大戦によってシステム化された社会は、日本の場合、そのまま戦後の平等意識に統合されます。

現代は、どこにいても、ネットワークの中で一望監視することが可能です。

○ 既製服

既製服の製造業が出現してくるのは、1820年代からです。制服のある国民軍への参加によって、既製服を買うことに抵抗が無くなったからです。

近代のシステムは、近代的な軍隊と戦争を背景にしています。相互に見知らぬ人間を集団として管理することも、個人を組織の単位として均質にみなすことも、すべて近代文体の管理技術と関連しています。大量な人間に同一に衣服や設備を供給するための規格化も、近代軍隊と戦争において広がったものです。

やがて、シャネルスーツが誕生します。男性用のスーツを身に付けることによって、逆に、セクシャリティに焦点が当たるようになりました。

○ 寒暖計

計測単位の世界統一が、世界を定量化し、国際社会を形成していきます。外界を時間と空間として定量的に計測するために、普遍的なゲージが必要になります。

○ トランジスタ・ラジオ

エルビス・プレスリーの「ハート・ブレイク・ホテル」がヒットした1956年。子供達が家庭用のラジオで、この騒々しいロックンロールを聴くことを両親は好みませんでした。そこで両親達は、トランジスタ・ラジオを子供達に与えることで、喧しさから逃れました。トランジスタ・ラジオを手にする事で、若者は親達から離れ、あらゆる場所を自らの空間にしました。

*以上の記事は、「日用品の文化誌」（柏木博）を元に構成しました。